

2026年1月5日

## 2026～2027年度代議員候補者について

公益社団法人日本分析化学会  
役員等候補者選考委員会

日本分析化学会の代議員は、総会を構成し、定款に定められた事項（理事および監事の選任または解任、貸借対照表および損益計算書の承認等）について審議、決定します。代議員候補者の選考は、定款第14条に基づき、日本分析化学会の正会員（名誉会員、永年会員ならびにシニア会員は正会員に含まれます）、教育会員および維持会員の代表者の投票によりこれらを決定することになっております。別紙記載の2026～2027年度代議員候補者は、公益社団法人日本分析化学会代議員選挙規則により各支部長および正会員、教育会員ならびに維持会員から推薦された候補者について役員等候補者選考委員会の審議を経て選定されたものです。

つきましては、日本分析化学会正会員（含名誉会員、永年会員、シニア会員）、教育会員、維持会員代表者各位には、別紙投票用紙により漏れなく投票をお願いします。候補者全員に賛成の場合は、そのままお送りいただければ有効投票となります。不適任と思われる候補者がいる場合はその氏名を消してください。

投票は無記名投票です。一つの封筒に1投票を入れ、封筒には「投票在中」と朱記し、勤務先（又は現住所）、氏名または維持会員代表者名を明記のうえ下記宛にお送りください。

投票締切日 1月31日（消印有効）

投票送付先 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号  
(公社)日本分析化学会 役員等候補者選考委員会

## 代議員選考に関する規程抜粋

## 定款

第14条 学会の社員は、正会員、教育会員及び維持会員の中から選出された90名以上130名以内の代議員をもつて「一般法人法」の社員とする。

2 代議員を選出するため、正会員、教育会員および維持会員による代議員選挙を行う。代議員選挙を行うために必要な細則は理事会において別に定める。

3 代議員は、正会員、教育会員および維持会員の中から選ばれることを要する。正会員、教育会員および維持会員は、前項の代議員選挙に立候補することができる。

## 代議員選挙規則

## (選挙権)

第2条 選挙権及び被選挙権は、選挙が行われる年度の1月1日現在における正会員、教育会員および維持会員が、これを有する（以下、有権者と略記する）。ただし投票日までに会員資格を喪失した場合には選挙権・被選挙権も失う。

## (代議員の選出)

第3条 代議員は、全有権者による投票により選出する。

2 学会細則10条に定める、理事および理事会から独立した役員等候補者選考委員会（以下、選考委員会と略記する）が代議員選挙を管理し、選挙が行なわれる年度の11月30日までに代議員候補者を募り、翌年1月発行の機関誌により候補者を有権者に通知し、2月の理事会以前に選挙を実施する。

3 選考委員会は、下記の事由が生じたときおよび9条2項に該当する場合には3か月以内に再選挙を実施する。

(1) 選挙で選ばれた代議員が定款14条に定める人数を満たさないとき、追加の候補を募り再選挙を行う。

(2) 補欠の代議員を含めても代議員数が定款14条に定める人数を満たさなくなったとき、新たな候補を募り再選挙を行う。

## お知らせ

### (代議員の立候補および支部による推薦)

第4条 有権者のうち、代議員に立候補しようとする者は、自薦または他の有権者の推薦により、選考委員会に、その定める締切日までに届け出る。

2 支部は、支部所属の有権者の中から候補者を推薦できるものとする。支部は推薦をするにあたっては、広く支部所属の有権者に推薦希望の有無を募らなければならない。

3 役員は候補者になることはできない。ただし、当年度の役員で当年度限りで退任する者は候補者となることができる。

4 理事を兼ねた支部長・副支部長は候補者を推薦することができない。その場合は理事でない副支部長が推薦を行う。

### (代議員選挙の方法)

第5条 選考委員会は有権者に対して機関誌広告により代議員選挙を案内し、立候補者を募集する。同時に各支部にも代議員選挙を案内し、推薦を要請する。

2 各支部の推薦候補者数は総数100名とし、当該支部に所属する年度初めの有権者の比率を勘案のうえ、選挙の都度理事会が推薦割当人数を決定し、選考委員会に通知する。

3 選考委員会は支部推薦候補者を含むすべての候補者と投票方法・投票期限を機関誌広告により全有権者に周知させる。

4 支部推薦によって選出された代議員が、その選出された支部から別の支部に所属を変更した場合でも、支部による推薦は有効とする。

### (代議員選挙の投票)

第6条 選挙は、有権者が機関誌（1月発行）に掲載した候補者名簿兼投票用紙を印刷・記入のうえで選考委員会へ送付する郵便投票によって行う。

2 選挙期日までの消印のある場合で開票前に到着したものは有効とする。

3 投票に際して、投票者本人が有権者であるかどうかを選考委員会が確認するために封筒外側に氏名を記入するものとする。

4 投票に際して投票者を確認するためにとられた措置による個人情報は投票の有効性を確認する以外にはこれを用いてはならない。

5 投票者は、全候補者名簿兼投票用紙のなかで不適と判断する候補者のみに×印をつけるものとする。印のない候補者は信任されたものとみなす。×印が有権者の過半数を超える場合は信任されない。

6 投票期日までに投票しなかった有権者は候補者全員を信任したものとみなす。

## 2026 年度有功賞候補者推薦について

日本分析化学会は、毎年、多年にわたって分析の実務に従事した方々や、分析に欠くべからざる機械、器具、試薬などの製造等の実務に従事した方々を表彰して「有功賞」を贈呈してまいりました。

本年も下記の有功賞規程により 2026 年度有功賞候補者を募集します。各関係機関におかれましては、適任者がおられましたら 1 名（維持会員の場合は 1 口に付き 1 名）を推薦くださいますようお願い申し上げます。

### 『有功賞規程』

第 1 条 本会に有功賞を設け、多年にわたり分析の実務に従事し、または分析に欠くべからざる機械、器具ならびに試薬などの製造等の実務に従事して功労のあった者に、これを贈呈する。

第 2 条 有功賞は、賞記ならびに賞牌とし、年会において贈呈する。

第 3 条 会長は、毎年会誌「ぶんせき」1 号に有功賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。

第 4 条 有功賞候補者の推薦者は、維持会員代表者、公益会員代表者および支部長とする。

(1) 維持会員代表者および公益会員代表者は、その機関に所属する者を推薦することができる。

(2) 支部長は、維持会員および公益会員に所属しない会員歴 5 年以上の正会員を推薦することができる。

第 5 条 前条によって推薦される者は、受賞する年の 1 月 1 日現在において満 50 歳以上であり、かつ休職期間を除いて満 25 年以上第 1 条の実務に従事している者とする。

第 6 条 候補者の推薦に際しては、次の (1)～(3) に規定する書類正、副各 1 通を 4 月 30 日までに本会に提出するものとする。

(1) 推薦書 (2) 推薦理由書 (3) 被推薦者履歴書 (いずれも本会所定の用紙に記入すること)

第 7 条 有功賞候補者の選考は、有功賞審査委員会において行う。

審査委員は、理事会が本会会員中より 11 名を選考し、会長がこれを委嘱する。

委員長は、委員の互選による。

(以下省略)

☆

☆

- 1) 2026 年度有功賞授賞式は、9 月 16 日（水）第 75 年会（仙台）において行う予定です。
- 2) 被推薦者の学歴制限はありませんが、被推薦者は本年 1 月 1 日現在において第 1 条の実務に従事されていることが必要ですので、ご注意ください（上記第 5 条）。
- 3) 有功賞候補者推薦書の維持会員代表者氏名は、本会に登録されている代表者氏名を記入してください（代表者氏名が異なる場合は返却します）。
- 4) 推薦理由書の所属部課係名、実務内容ならびに期間は、できるだけ詳細に記入してください。
- 5) 推薦書類（推薦書、被推薦者履歴書、推薦理由書：本会所定の用紙）は、正 1 通、副 1 通（コピーでも可）を下記期限までに提出してください。
- 6) 推薦期限：4 月 30 日（郵送の場合は、当日の消印のあるものまで受理します）
- 7) 推薦書類提出先：〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号  
公益社団法人日本分析化学会有功賞係（メールでの送信は shomu@jsac.or.jp）
- 8) 所定の書類を入用の場合は、<https://www.jsac.jp/applications/> からダウンロードしてください。

## 第394回ガスクロマトグラフィー研究会・見学会

主催 (公社)日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会

### 期日

2026年1月29日(木) 13:30~17:00(意見交換会 17:30~)

会場 日本生活協同組合連合会商品検査センター〔埼玉県蕨市錦町1-17-18〕

### 特別講演①

日本生活協同組合連合会商品検査センター

「日本生協連の品質保証活動と商品検査センターの紹介」

廣川大志郎

「残留農薬分析における GC-MS/MS の使用例」

天谷雪絵

「異臭分析における GC-MS の使用例(仮)」

原田裕大

### 特別講演②

「残留農薬分析の国内外における現状」

(株)エスコ 代表取締役社長 坂 真智子

参加費 (要旨集代込み) GC 研究懇談会会員・学生: 無料, GC 研究懇談会会員外: 3,000 円, 意見交換会: 6,000 円

参加申込期限 2026年1月21日(水)(※ GC 懇 HP 等で既に募集を開始しており定員に達している場合がございます。予めご了承ください。)

詳細はガスクロマトグラフィー研究懇談会の web ページに掲載しています。

<https://www.jsac.or.jp/~gc/conference/2025.html#GC394>

## 第395回ガスクロマトグラフィー研究会

主催 (公社)日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会

### 期日

2026年2月6日(金) 13:00~17:30(意見交換会 18:00~)

会場 北とぴあ・ペガサスホール〔東京都北区王子1-11-1〕

### プログラム

#### 主題講演1:

「持続可能な航空燃料(SAF)の品質規格と試験」(仮)

(日本海事検定協会) 高砂武司

#### 主題講演2:

「GX(グリーン・トランスフォーメーション)に貢献する最新GC分析技術」

(アジレント・テクノロジー) 中村貞夫

#### 主題講演3:

「バイオものづくりに役立つ GC,GC/MS—微生物の気持ちを GC/MS で聞く—」

(大阪大学工学研究科福崎研究室) 古野正浩

#### 技術講演: 6件程度

参加費 GC 研究懇談会会員・学生: 無料, GC 研究懇談会会員外: 3,000 円, 意見交換会: 4,000 円

参加申込期限 2026年1月30日(金)

参加登録および詳細はガスクロマトグラフィー研究懇談会の web ページをご確認願います。

<https://www.jsac.or.jp/~gc/conference/2025.html#GC395>

## 第416回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会

後援 (公社)日本化学会, (公社)日本農芸化学会, (公社)日本分析化学会

実試料には分析種に対して多量のマトリックス成分が含まれていることが多い、そのままで HPLC や LC/MS 測定に供することは困難であり、前処理操作が必要である場合が多くあります。適切な前処理が行われなければ、いかに高性能な分析機器を用いても正確な測定結果を得ることはできません。本例会では、HPLC および LC/MS 分析における前処理技術について、基礎、ノウハウ、実施例、最新技術などをご紹介いただきます。

期日 2026年2月26日(木) 13:00~17:05

会場 (株)日立ハイテクアリシス サイエンスソリューション

ラボ東京〔東京都中央区新富2-15-5 RBM 築地ビル, 交通: 東京メトロ有楽町線「新富町」駅より徒歩1分(5番出口利用), 東京メトロ日比谷線「築地」駅より徒歩4分(4番出口利用), JR 京葉線, 東京メトロ日比谷線「八丁堀」駅より徒歩8分(A3出口利用)〕

<https://www.google.com/maps/search/?api=1&query=35.671216%2C139.775152>

### 講演主題

HPLC 及び LC/MS における試料前処理の基礎と実際

### 講演

講演主題概説 (オーガナイザー) (13:00~13:05)

((一社)臨床検査基準測定機構) 岡橋美貴子

1. HPLC 及び LC/MS における試料前処理の基本 (13:05~13:20)

((一社)臨床検査基準測定機構) 岡橋美貴子  
(LC 分析士三段)

2. 各種試料中の PFAS 分析のための効果的な前処理方法 (13:20~13:55)

(ジーエルサイエンス(株) 太田茂徳  
(LC 分析士二段)

3. HPLC および LC/MS 分析における試料前処理の自動化 (13:55~14:30)

((株)島津製作所) 寺田英敏  
(LC 分析士三段, LC/MS 分析士初段)

4. 生体試料における LC-MS 定量分析のための前処理法の最適化 (14:30~15:05)

((株)東レリサーチセンター) 吉岡陽子  
(LC 分析士初段, LC/MS 分析士初段)

休憩 (15:05~15:20)

5. OTC 医薬品における生薬・漢方製剤の試料前処理とその実際 (15:20~15:55)

((株)太田胃散) 濱崎保則  
(LC 分析士二段, LC/MS 分析士初段)

6. 食品分析実務における前処理法の構築 (15:55~16:30)

((一財)日本食品検査) 橋田 規

(LC 分析士三段, LC/MS 分析士四段)

7. 総括 「HPLC 及び LC/MS における試料前処理の基礎と実際」(16:30~17:05)

(東京理科大学) 中村 洋  
(LC マイスター, LC/MS マイスター)

参加費 ①学生: 1,000 円, ②LC 懇・個人会員: 2,000 円, ③

LC 懇・団体会員: 3,000 円, ④後援学会・個人会員: 4,000

円, ⑤後援学会・団体会員: 4,500 円, ⑥その他: 5,000 円

(領収書の発行は、送金月日にかかわらず 2026 年 2 月 27 日以降となります。請求書は発行しません)。

参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。

なお、日本薬学会会員として申込みされる方は、後援学会欄に日本薬学会が表示されていることをご確認のうえお申込みください。まだ表示されていない場合は、表示されるまでお待ちください。

**情報交換会** 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します（会費5,000円）。参加申込締切後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

**参加申込および参加費等納入締切日** 2026年2月19日（木）（入金締切時刻：15時まで）

#### 申込方法

1. 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先（電話番号）、LC会員・協賛学会会員・その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みください。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。
2. お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「第41回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付（自動返信）」のメールが届きます。メールが届かない場合は、①入力したご自分のアドレスに間違いがないか、②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ、世話人までお問い合わせください。
3. 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に研究懇談会参加費、情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合、お申込みを無効とし参加URLを発行しませんので、十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお、いったん納入された参加費は、返金いたしません。
4. 参加費の納入が確認できた方には、2026年2月20日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。また、請求書の発行はいたしておりません。

**液体クロマトグラフィー研究懇談会（例会）参加費送金時のご注意**

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

1. 複数例会の参加費の同時振込  
(→例会ごとに振り込んでください)
2. 複数参加者の参加費の同時振込  
(→参加者ごとに振り込んでください)
3. 年会費や他の費用との合算振込  
(→費目ごとに振り込んでください)

**申込先** <https://forms.gle/Dy8LemKaTstSHQsn8>  
(学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載)

**銀行送金先** りそな銀行五反田支店（普通）1754341、口座名義：シヤニホンブンセキカガクカイ【公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会】

**問合先** (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 (一社)臨床検査基準測定機構 岡橋美貴子  
(E-mail : [mikikojrmi@jrmialc.org](mailto:mikikojrmi@jrmialc.org))

## 2026年度液体クロマトグラフィー分析士 五段認証試験

下記要領で実施する予定ですので、お知らせいたします。

**日時** 2026年4月13日（月）14時～15時30分

**会場** 日本分析化学会会議室〔東京都品川区西五反田1-26-2五反田サンハイツ303号室〕

**五段資格のイメージ** 「分析士を育成・指導できるレベル（師範）、論文の査読・指導、学位論文の審査、国際会議において存在価値が評価される質疑応答ができる。」

**分析士五段認証試験** 分析士五段試験では書類選考試験（事前

提出）、筆記試験（記述式）および面接試験を総合して合否を決定します。書類選考用資料には、①氏名、②生年月日、③現職、④学歴、⑤職歴、⑥LCに関する研究・業務経験、⑦論文発表（適当数）、⑧学位の有無、⑨講習会・講演会における講師等の実績、⑩論文査読の経験、⑪学位論文審査の経験、⑫組織委員・実行委員等の実績、⑬国際会議における座長・依頼講演等の実績、⑭LC分析士四段の登録番号、⑮その他、特記事項、をこの順で記載し、申込締切日までに下記資料送付先にお送りください（お送りいただいた資料は本認証試験以外の目的には使用しません）。筆記試験には、与えられた課題に対してご自身の考えを問う問題が出題され、45分以内に解答していただきます。面接試験は筆記試験後に30分程度行います。

**受験料** 11,000円（合格者は登録料7,700円を別途申し受けます）。適宜、インボイス制度に対応した適格請求書事業者登録番号入りの領収書を発行します。なお、請求書は発行しません。

**受験資格** 受験できる方はこれまでに行われたLC分析士四段試験に合格し、登録された方に限ります。

**申込方法** 受験料の銀行振込後、書類選考用資料を資料送付先にお送りください。

**申込締切** 3月31日（火）

**振込銀行口座** りそな銀行五反田支店 普通預金0802349、口座名義：(公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会。なお、一度お振込いただいた受験料は返却しません。万一、当方の判断で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

**資料送付先・問合先** (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会・分析士認証試験係〔E-mail : [nakamura@jsac.or.jp](mailto:nakamura@jsac.or.jp)〕

## 2026年度液体クロマトグラフィー分析士 四段認証試験

下記要領で実施する予定ですので、お知らせいたします。

**日時** 2026年4月20日（月）14時～15時30分

**会場** 日本分析化学会会議室〔東京都品川区西五反田1-26-2五反田サンハイツ303号室〕

**四段資格のイメージ** 「学会発表、投稿を通して、技術的議論が行え、講習会の講師が務まるレベル。また、当該分析・測定技術に関する英語の文献を適切に理解し、博士の学位に相当する学識経験を有する。」

**分析士四段認証試験** 分析士四段試験では書類選考試験（事前提出）と筆記試験（記述式）とを総合して合否を決定します。書類選考用資料には、①氏名、②生年月日、③現職、④学歴、⑤職歴、⑥LCに関する研究・業務経験、⑦論文発表（適当数）、⑧口頭発表（適当数）、⑨学位の有無、⑩LC分析士三段の登録番号、⑪その他、特記事項、をこの順で記載し、申込締切日までに下記資料送付先にお送りください（お送りいただいた資料は本認証試験以外の目的には使用しません）。筆記試験には、1) 英文和訳問題、2) 与えられた課題に対してご自身の考えを問う問題、の2題が提出され90分以内に解答していただきます。

**受験料** 9,900円（合格者は登録料6,600円を別途申し受けます）。適宜、インボイス制度に対応した適格請求書事業者登録番号入りの領収書を発行します。なお、請求書は発行しません。

**受験資格** 受験できる方はこれまでに行われたLC分析士三段試験に合格し、登録された方に限ります。

**申込方法** 受験料を銀行振込後、書類選考用資料を資料送付先にお送りください。

**申込締切** 4月7日（火）

**振込銀行口座** りそな銀行五反田支店普通預金 0802349, 口座名義：(公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会。なお、一度お振込いただいた受験料は返却しません。万一、当方の判断で試験が中止された場合には、次回の受験料を免除します。

**資料送付先・問合先** 日本分析化学会 LC 研究懇談会・分析士認証試験係 [E-mail : nakamura@jsac.or.jp]

### —以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

#### 第 312 回ゴム技術シンポジウム 基礎から応用技術で見るゴムのトライボロジー

主催 (一社)日本ゴム協会  
期日 2026 年 1 月 21 日 (水)  
会場 東部ビル 5 階  
ホームページ [https://www.srij.or.jp/event\\_detail/第 312 回ゴム技術シンポジウム/](https://www.srij.or.jp/event_detail/第 312 回ゴム技術シンポジウム/)  
連絡先 〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-26 東部ビル 1 階 (一社)日本ゴム協会 高田顕弘  
[電話 : 03-3401-2957, E-mail : kenkyuubukai@srij.or.jp]

#### 東海支部 2025 年度アドバンストセミナー 『次世代エラストマーのための 材料設計と研究開発動向』

主催 (一社)日本ゴム協会東海支部  
期日 2026 年 1 月 22 日 (木)  
会場 名古屋市工業研究所 視聴覚室 ハイブリッド開催  
(Zoom を利用)  
ホームページ <https://www.srij.or.jp/branch/>  
連絡先 (一社)日本ゴム協会東海支部  
[電話 : 052-880-7389, E-mail : srij-tokai@sf.commufa.jp]

#### 腐食防食部門委員会第 364 回例会

主催 (公社)日本材料学会  
期日 2026 年 1 月 22 日 (木)  
会場 大阪府教育会館たかつガーデン 2 階コスモス  
ホームページ <http://www.jsms.jp>  
連絡先 〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町 1-101  
(公社)日本材料学会 [E-mail : jimu@office.jsms.jp]

#### 表面科学技術研究会 2026 PFAS 規制の動向と代替技術の展望

主催 (一社)表面技術協会関西支部  
期日 2026 年 1 月 23 日 (金)  
会場 (地独) 大阪産業技術研究所森之宮センター大講堂  
ホームページ <https://kansai.sj.or.jp/>  
連絡先 〒606-0805 京都府京都市左京区下鴨森本町 15 (一社)表面技術協会関西支部 (一財)生産開発科学研究所内  
石川 誠 [電話 : 075-781-1107, E-mail : kansai-office@sj.or.jp]

日本薬学会第146年会  
ジョイントシンポジウム（JS）

主催 文科省科研費学術変革領域研究（B）「細胞から環境水へと繋ぐスケール横断分析」  
期日 2026年3月28日（土）  
会場 関西大学  
ホームページ <https://pub.confit.atlas.jp/ja/event/pharm146/content/symposium>  
連絡先 日本薬学会年会サポートデスク（中西印刷（株）  
[E-mail : pharm-print@nacos.com]

「分析化学」年間特集“波”論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より年間特集を企画し、2026年のテーマを「波」と決定しました。

「波」は光の波長と波数を想起させることから、分光分析の基礎および応用についての論文を募集します。例えば以下のような研究について募集を行います。

1) 将来的に分析化学に応用される可能性をもった分光測定法の開発。2) 分光分析による構造解析、定量、微量検出、化学種同定。3) 表面分光・顕微分光による局所測定とイメージング。4) 分光法と類似の情報が得られる中性子や超音波を用いた測定。5) 多変量解析や理論計算による分光測定結果からの情報の抽出。

一方で、「波」は直接、海や川の表面に起こる波を連想させます。本特集においては、海洋や河川の表層または岸辺を対象とした環境分析についても論文を募集します。

本特集に関わる論文は年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は、単行の特集号を除く「分析化学」第75巻（2026年）合併号の冒頭に掲載する予定です。多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文原稿締切：2026年4月17日（金）（第3期）

「分析化学」特集  
“未来を拓く熱分析”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、熱分析研究懇談会と共同で「未来を拓く熱分析」と題した特集を企画しました。熱分析は、“物質の温度を調節されたプログラムに従って変化させながら、その物質の物理的性質を温度（または時間）の関数として測定する一連の技法の総称です。適用範囲は、プラスティック、ゴム、セラミックス、金属、鉱物といった材料分野から、食品、製薬などの製品分野、生体・環境・エネルギー分野と多岐にわたり、およそあらゆる物質を対象としています。対象も手法も日々進化しています。本特集号では、広く熱分析が力を発揮した研究論文の投稿をお待ちしています。奮ってご投稿ください。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2026年2月20日（金）

特集論文原稿締切：2026年4月17日（金）

初めて書く論文は母語の日本語で！  
“第25回初執筆論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2026年（第75巻）に第25回「初執筆論文特集」を企画し、下記要領で論文を募集します。卒研生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとつて、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2025年より本特集名を「若手初論文特集」から「初執筆論文特集」と変更しました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になります。次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

自分のアイデア、研究成果を自由に表現できる母語の日本語で、初めての学術論文執筆にチャレンジしてください。先生や先輩に指導をいただいて、論文作成法を習得する良いチャンスにもなります。これは大変貴重な経験であり、次の新たなステップにつながることでしょう。このチャンスは一度しかありません。多数の方々からのご投稿をお待ちしております。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することにいたしました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合： $30,000 + 5,000 \times (P-4)$ （印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）

会員外の場合： $40,000 + 5,000 \times (P-4)$ （印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

\*上記に消費税がかかります。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといつても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に着ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することいたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用にお

ける注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

## 記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
  - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
  - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、3) 分析機器および分析手法の応用例、4) 分析に必要となる試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的 requirement が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会  
[E-mail : bunseki@jsac.or.jp]

(後援又は協賛)

11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

## 「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先は shomu@jsac.or.jp です。原稿の長さに制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月 25 日（例：1月号掲載→11月 25 日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 國際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧いただきか、本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 國際会議以外の講演会等につきましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領につきましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルを shomu@jsac.or.jp にお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋

(共催)

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。